

## 健康茶による夏季潰瘍の再発予防

増澤 幹男

(北里大学医学部皮膚科)

夏季潰瘍を伴うリベド (livedo reticularis with summer ulceration) は、最近めずらしくなくなった疾患の1つと思われます。当科においては数十例の方が通院されています。この疾患概念はまだ確立しているとはいえませんが、少なくとも狭義の壊死性血管炎ではなく、皮膚微小血管の血行障害であるといえます。この疾患の問題点は、毎年のように再発する夏季潰瘍です。足関節を中心にくり返されるこの虫食い状の疼痛性潰瘍は、いったん形成されると、上皮化するのに数カ月を要します。患者さんにとってかなりのストレスになっています。再発予防として生活の改善と、薬物療法として末梢循環改善剤、抗血小板剤、ビタミン剤、ときには免疫抑制剤やステロイドホルモンの投与を行います。が、確実な予防はできていません。文献上もこれといった予防方法は報告されていません。

最近、学内の某研究者の紹介で“かんぼう茶”(武蔵野免疫研究所)なる健康茶を知ることとなりました。お茶の主原料はピデンス・ピローサで、それに生姜と味付けに焙煎大麦が添加されています。ピデンス・ピローサは本州以南の日本や、台湾、中国を含む熱帯各地に自生するキク科の植物で、古くから煎じて利尿、消炎、解熱、鎮痛薬として利用されていたようです。また、生姜は保温、健胃作用があり、大麦は整腸作用が知られています。これらがうまく配合されて飲みやすい健康茶になっています。飲み方は分包された1パックに煮沸した約1lのお湯を注ぎ、1日数回に分けて、保温して飲むのが基本となっています。薬効から考えて血行障害に少しは効果があるかもしれないと、当科の脈管外来に通院中の、お茶の好きな患者さん22名に飲んでもらいました。患者さんの疾患は各種

の血行障害ですが、味が好みではない1例と便秘になると訴えた1例を除き、20例の方はたいへん気に入って継続飲用してくれました。多くの患者さんは汗が出やすくなったとか、手足が暖かくなってきたことを自覚されました。

22名の中に7例のlivedo reticularis with summer ulcerationの患者さんがおられました。平均8年の罹病期間があり、ほとんどの患者さんが毎年再発する夏季潰瘍に悩んでおられました。驚いたことに、この7例の患者さんの夏季潰瘍は、昨年はまったくといっていいほど再発しませんでした。夏季潰瘍は、必ずしも毎年再発するとはかぎりませんが、お茶を飲用した7例全例に夏季潰瘍が出現しなかったことは、お茶の効果は疑う余地はないものと思われる。潰瘍が再発しなかったことで患者さんにはたいへん喜ばれました。有効性については冷静に判断し、今後長い経過でこの効果の確証を得なければなりません。が、血行障害の患者さん、とりわけ再発をくり返している夏季潰瘍の患者さんに、食生活の一部としてこの健康茶を飲用してみる価値は十分にあると思います。最近の日本生薬学会での報告では、糖尿病にも効果があるといわれています。試されたい方は、武蔵野免疫研究所(フリーダイヤル：0120—385—634)に連絡してみてください。